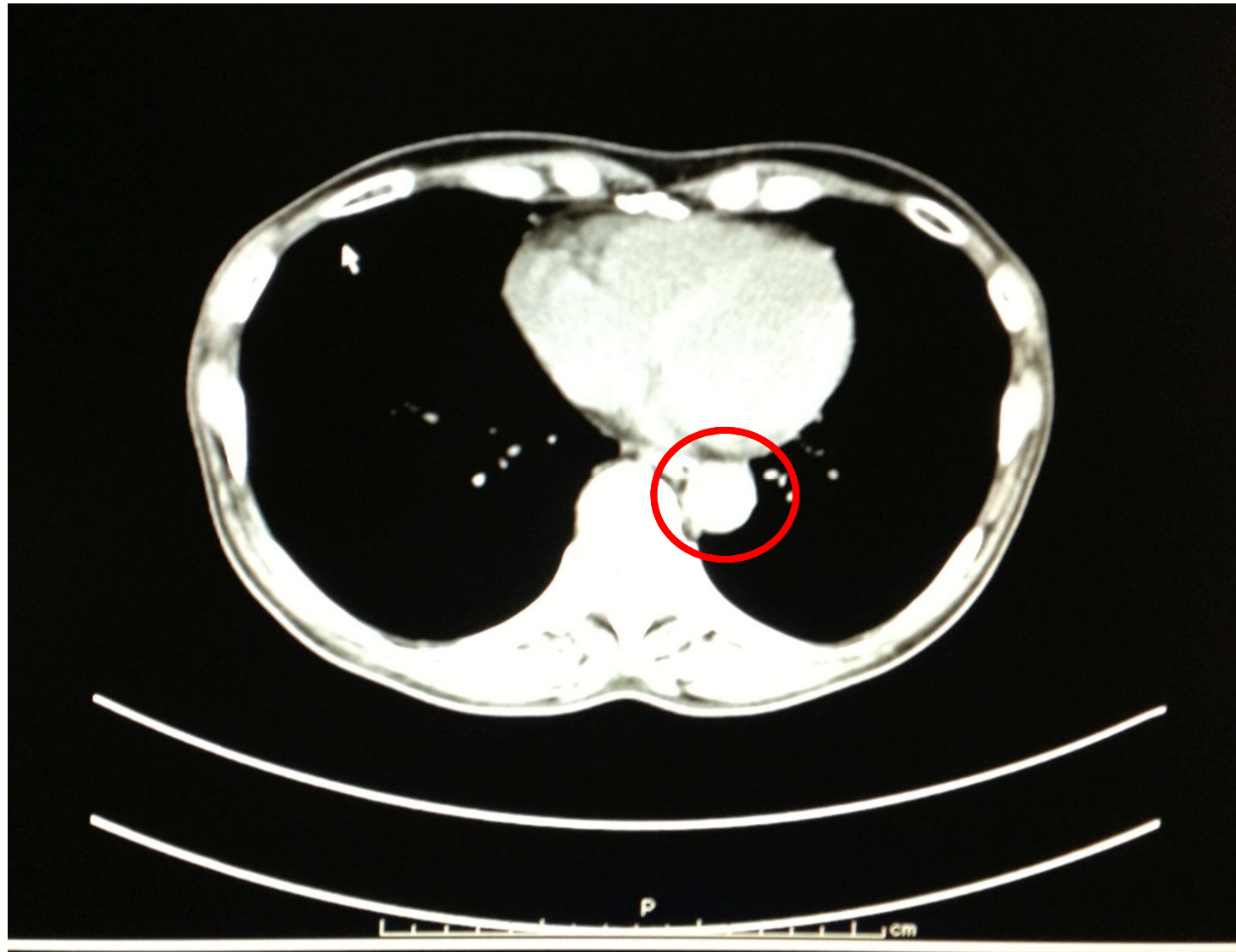


症例3 内分泌

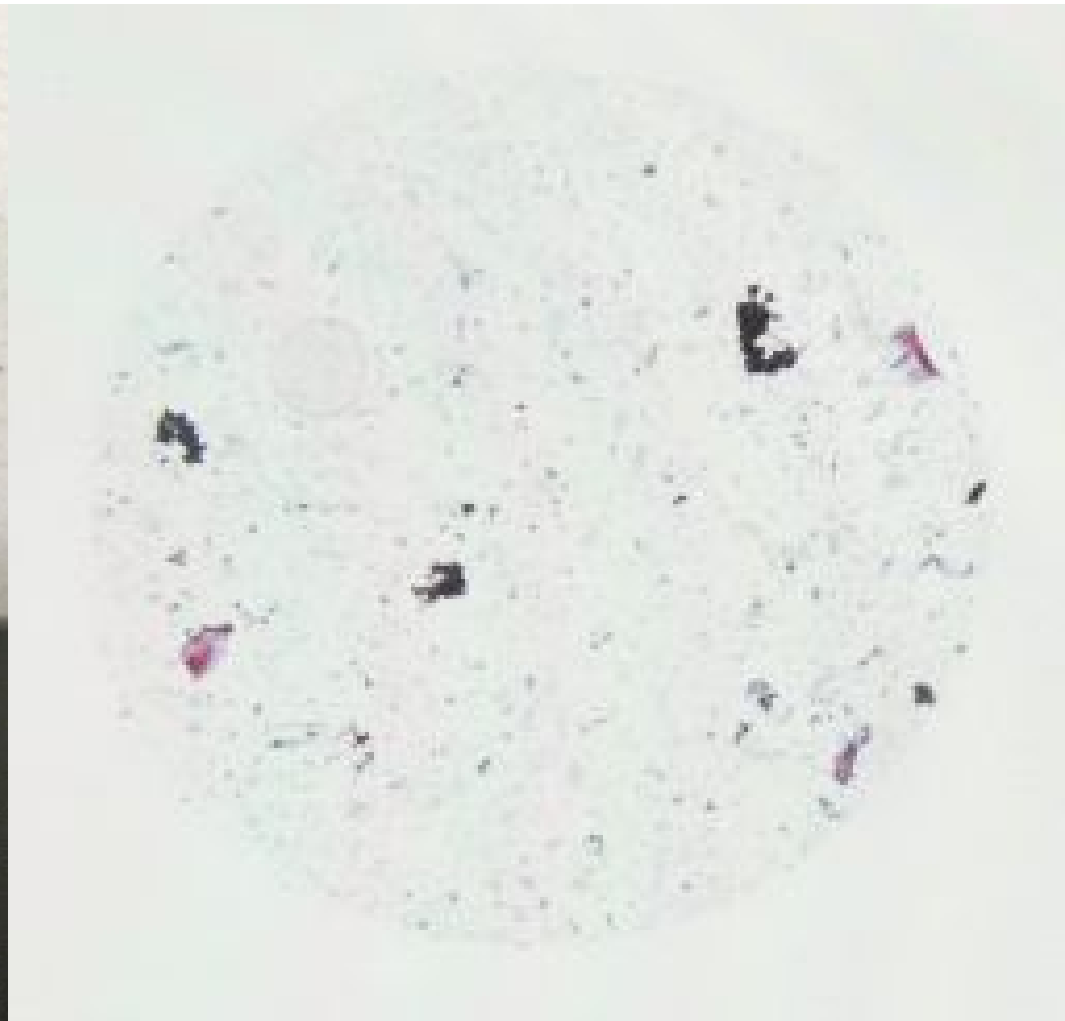
- 60歳代, 女性.
- 左副腎腫瘍を指摘.
- 既往歴: 肺癌(詳細不明).
- 腫瘍マーカー: NSE上昇(18.1ng/ml)
CEA上昇(10.0ng/ml)
- 超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)
- 標本: BDシュアパスLBC (direct-to-vial)1枚

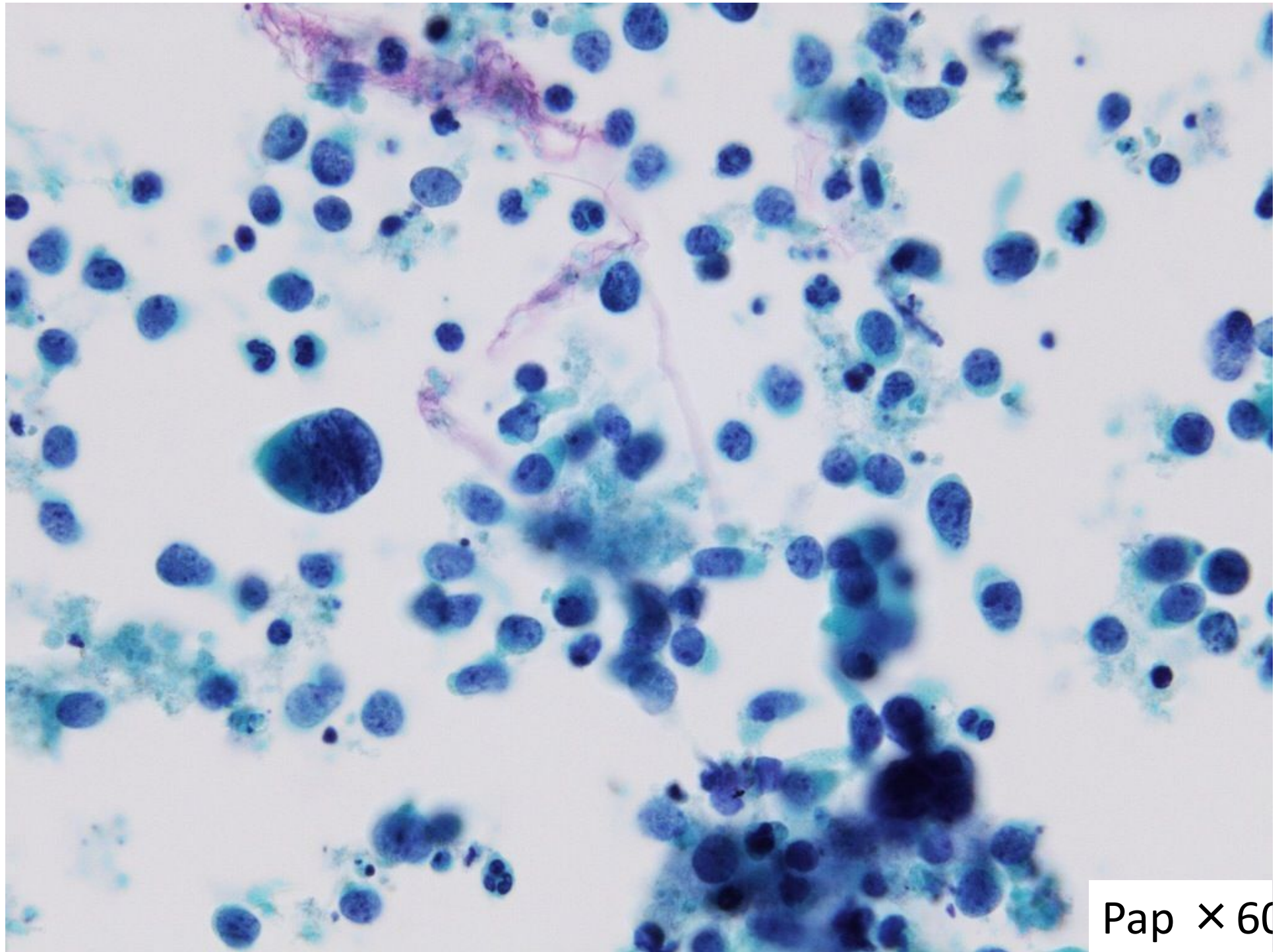
腹部CT



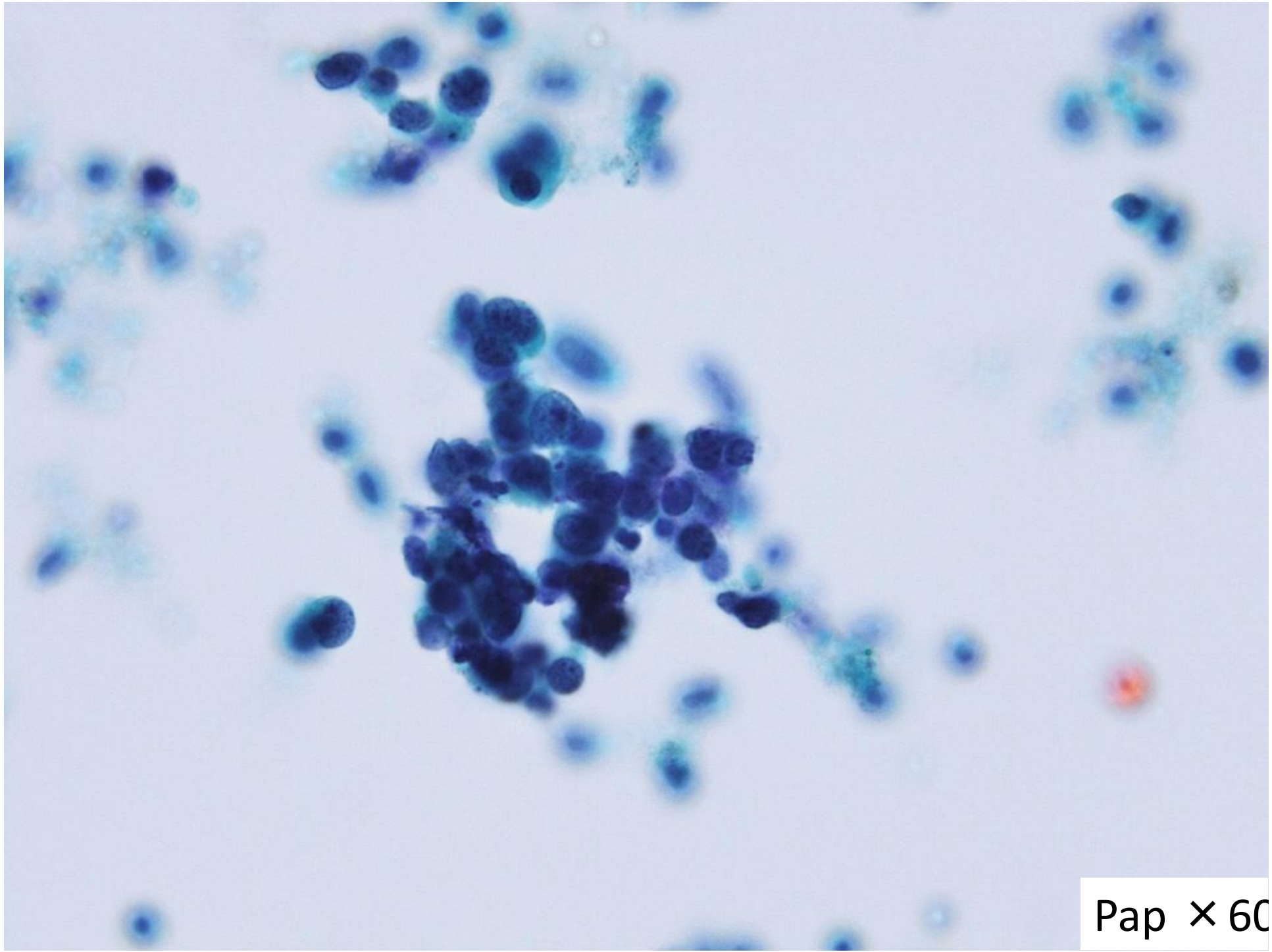
左副腎に2cm大の充実性腫瘤

副腎腫瘍EUS-FNA

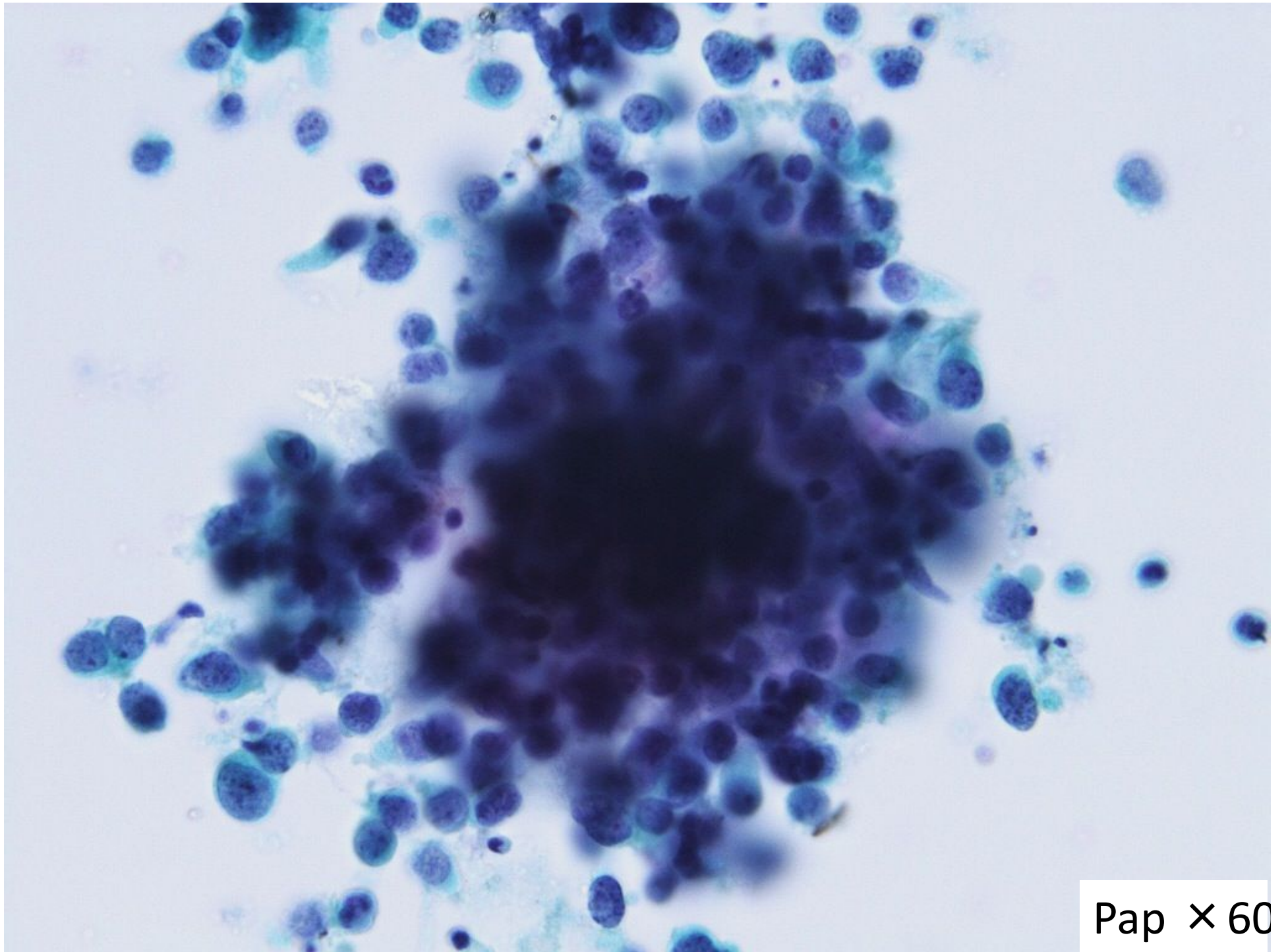




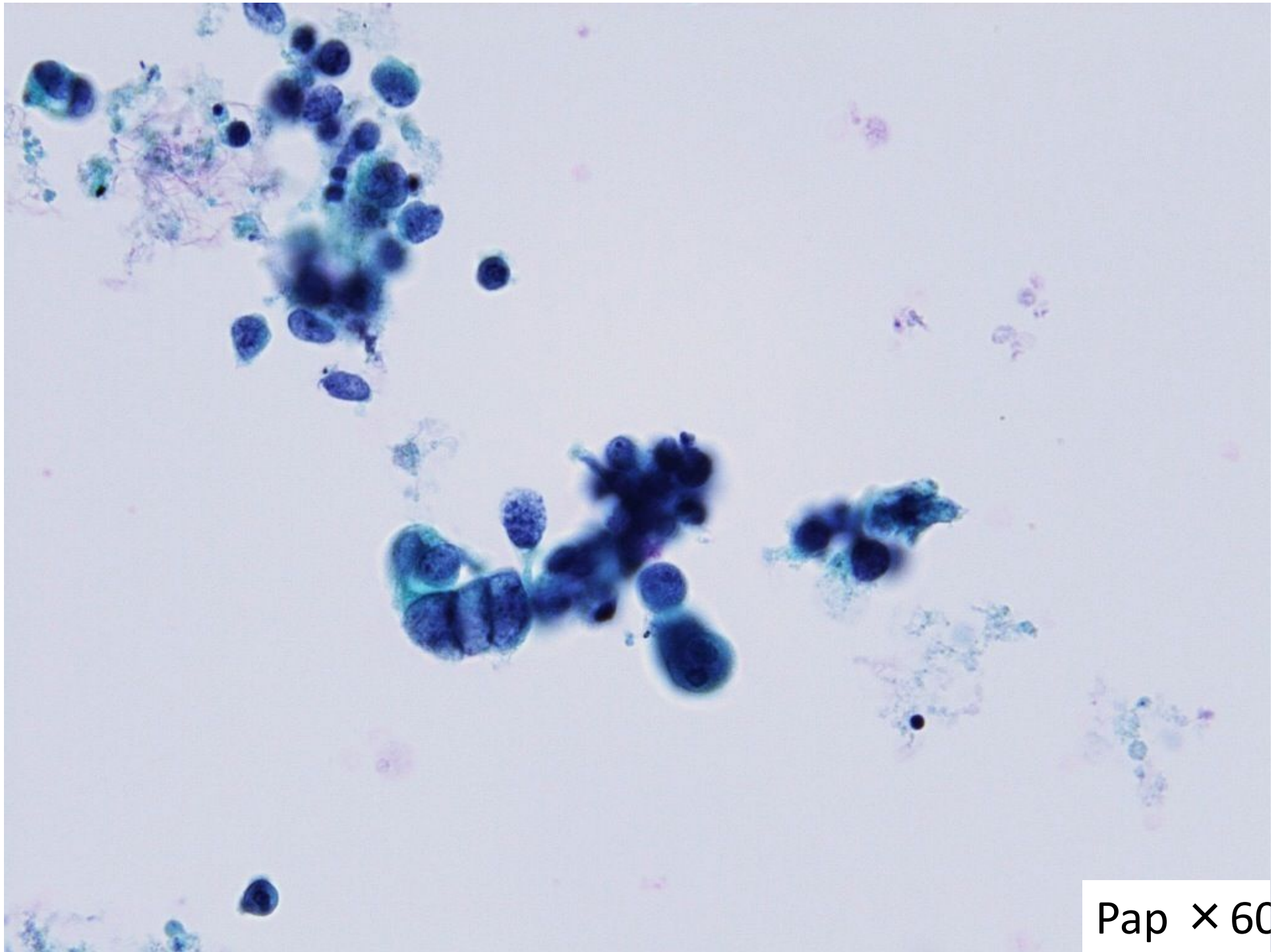
Pap × 60



Pap × 60



Pap × 60



Pap × 60

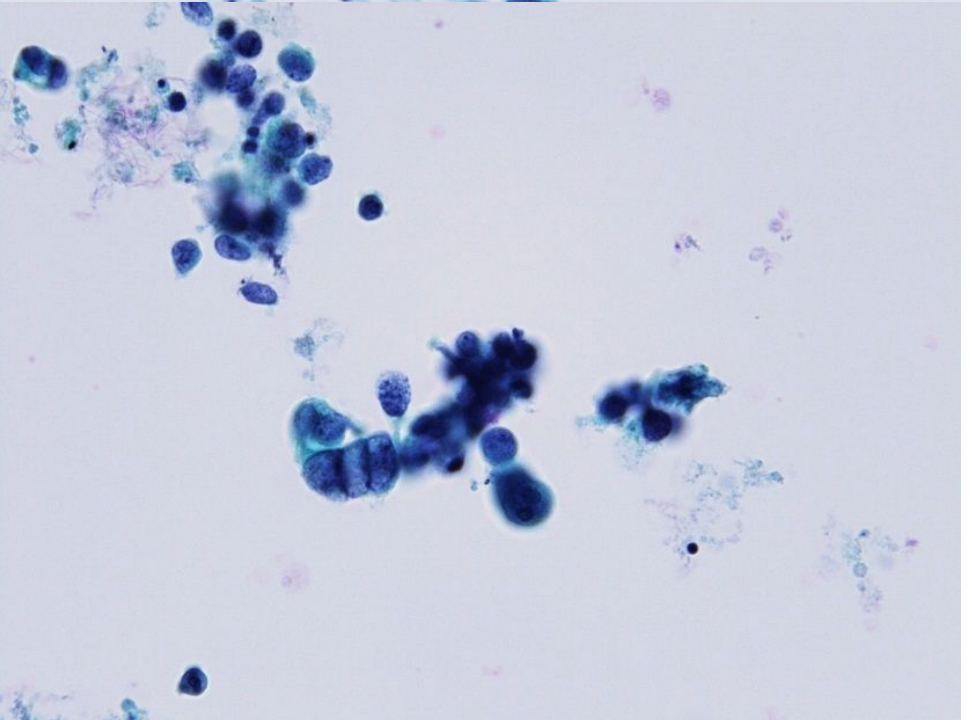
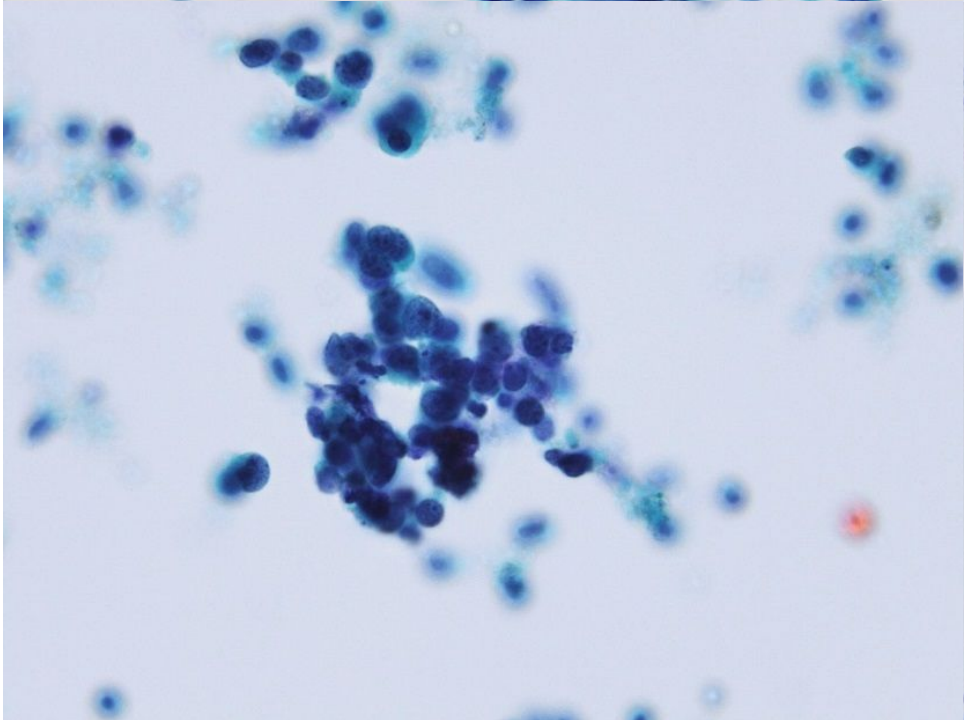
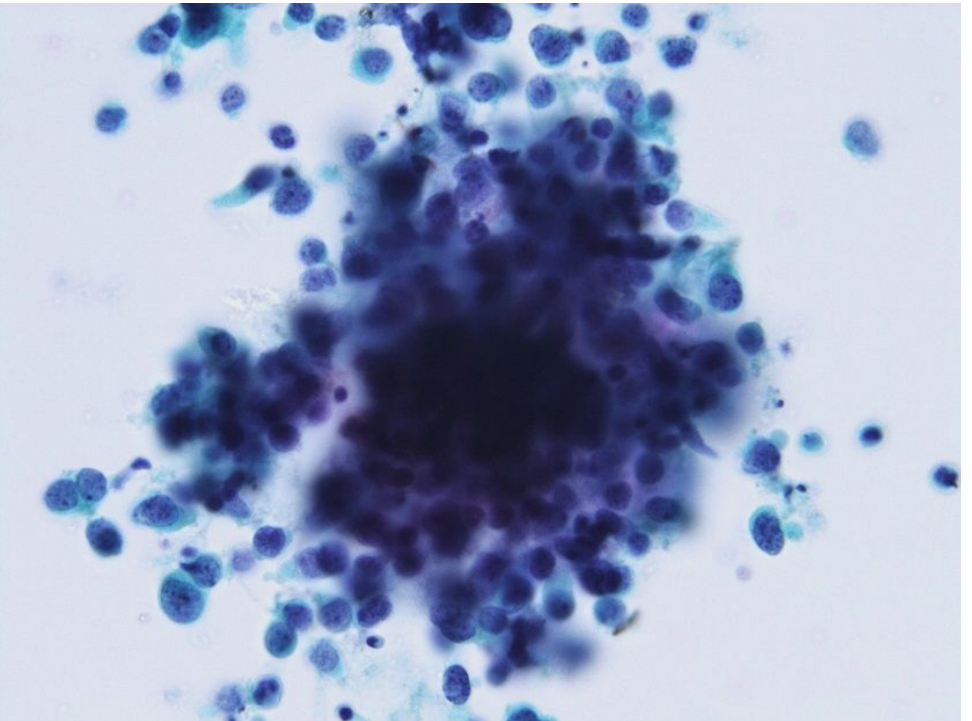
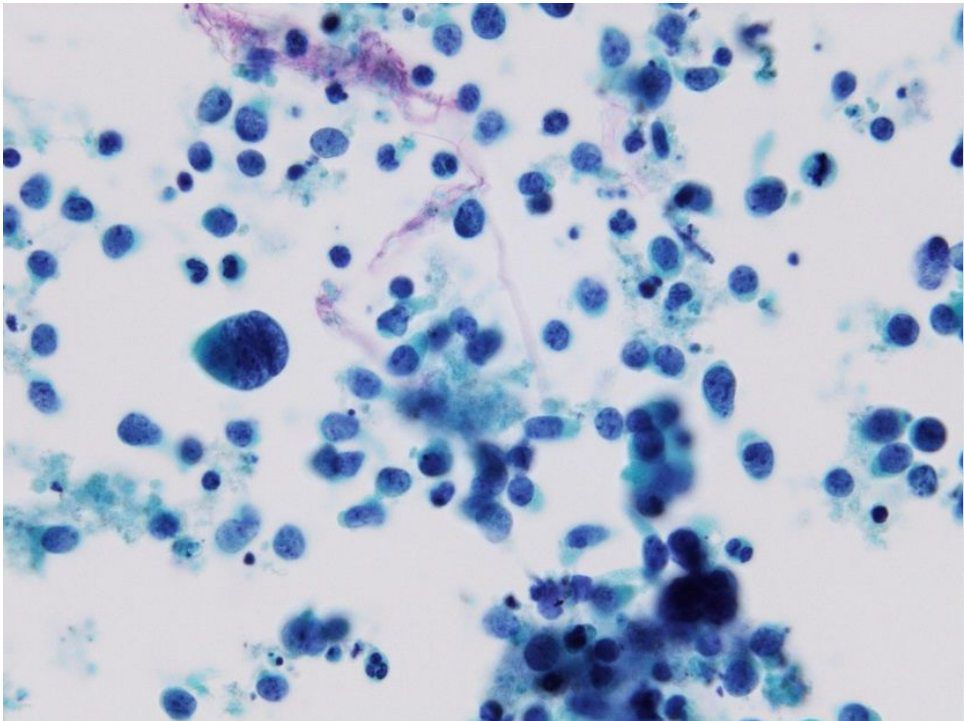
選択肢

- ① 褐色細胞腫
- ② 悪性リンパ腫
- ③ 明細胞腺癌
- ④ 神経内分泌癌
- ⑤ 高分化型腺癌

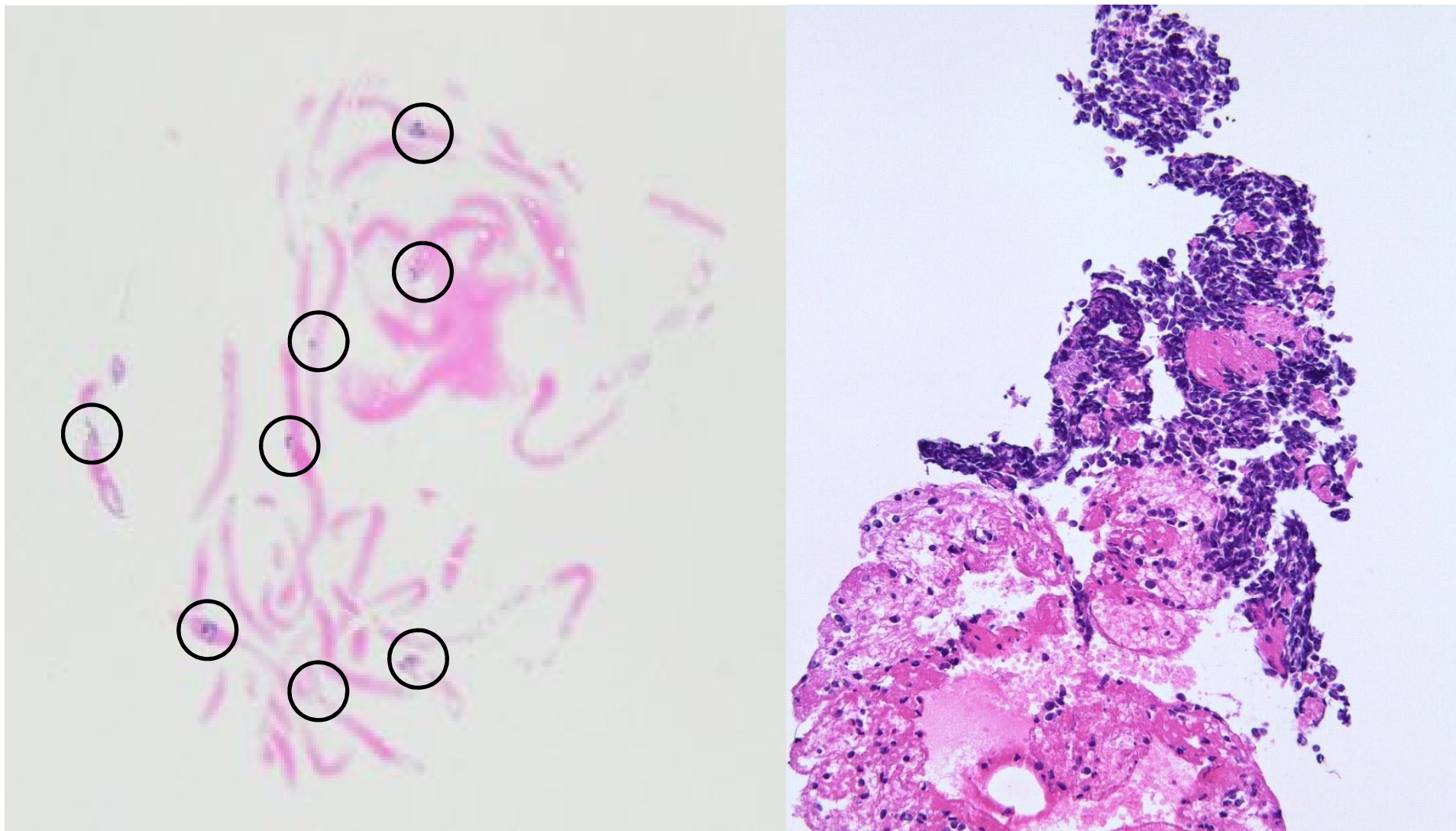
解 説

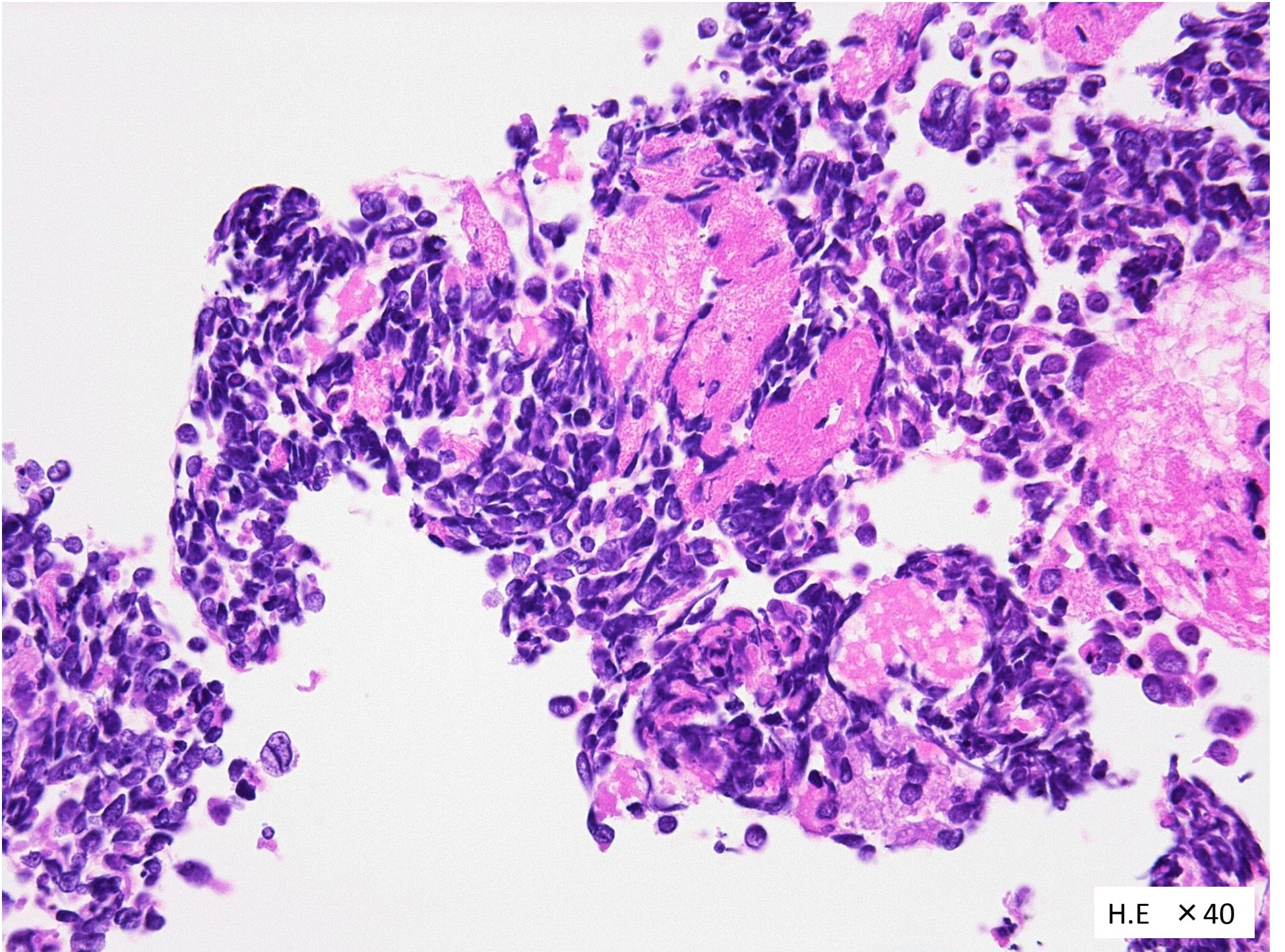
最も適切な診断は？

- ① 褐色細胞腫
- ② 悪性リンパ腫
- ③ 明細胞腺癌
- ④ 神経内分泌癌**
- ⑤ 高分化型腺癌



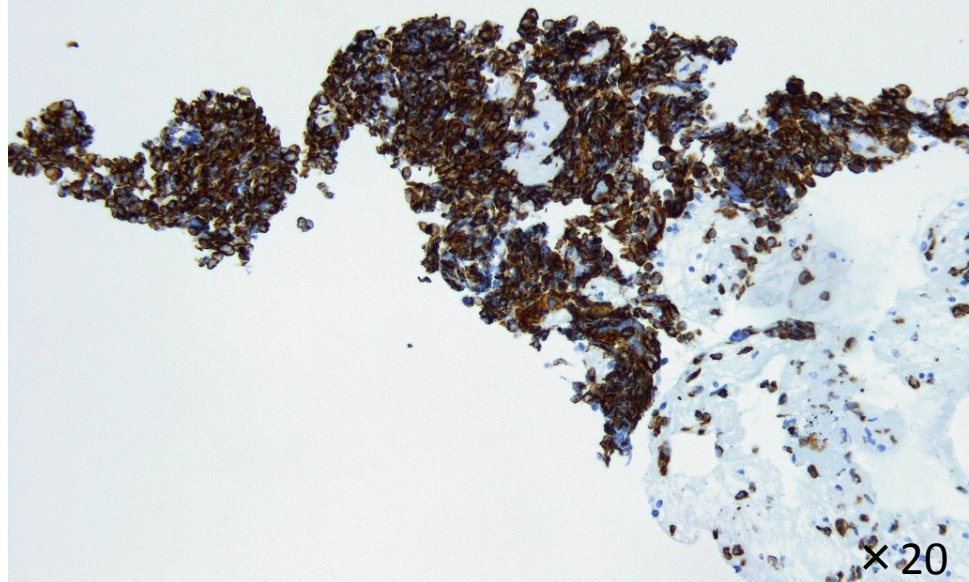
セルブロック



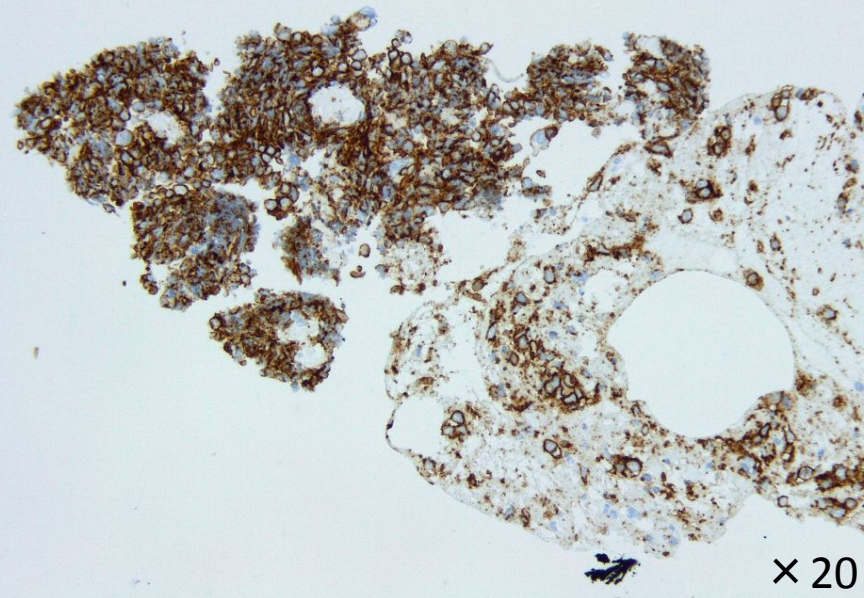


H.E × 40

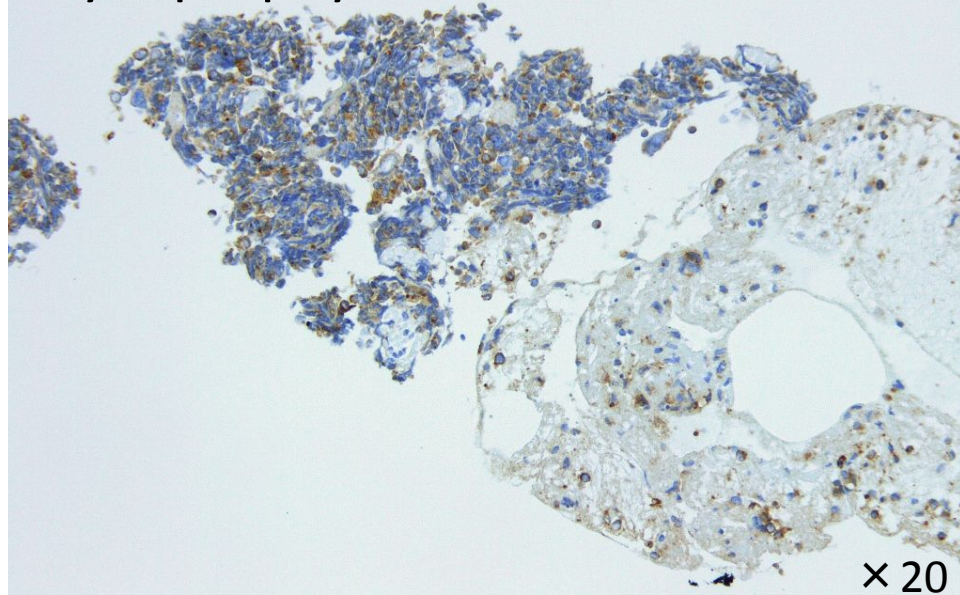
CAM5.2(+)



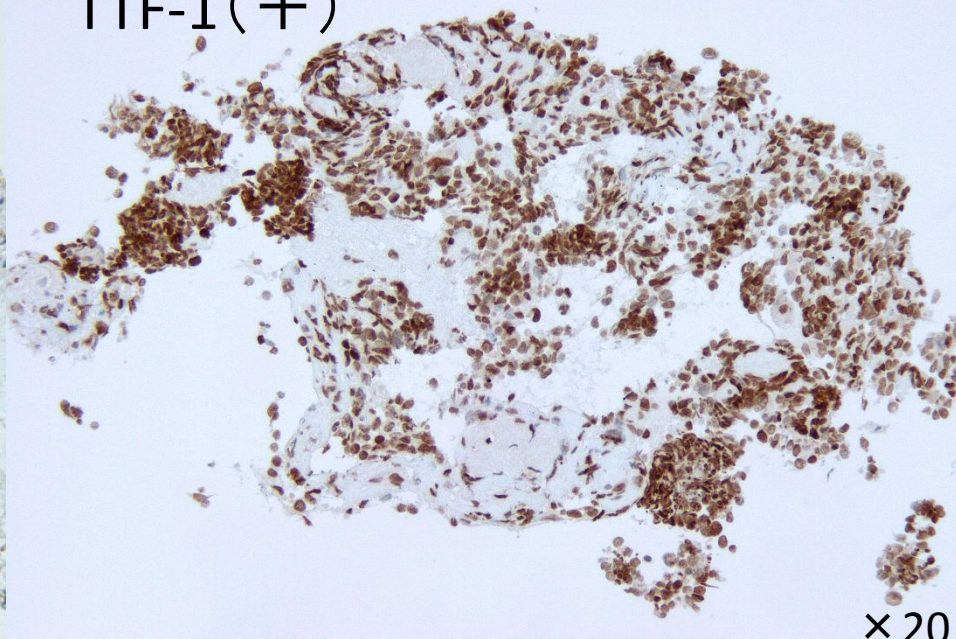
CD56(+)



Synaptophysin(+)



TTF-1(+)



組織診断

Metastatic small cell carcinoma
of adrenal gland
(primary lung cancer)

副腎

副腎は非常に血管血流が豊富であり、悪性腫瘍の転移先となりやすく¹⁾、肝臓(45.7%)について副腎(41.5%)が多いとされている²⁾。

原発性肺癌において腹部臓器転移率は副腎(25.6%)、肝臓(20.5%)、腎臓(10.3%)の順に多く、組織型では扁平上皮癌に比べて腺癌における副腎、肝臓転移率が高い²⁾とされている。

1)石戸谷滋人ほか. 転移性副腎腫瘍の病態と手術. 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 2013;30(1):45-49.

2)石垣武男ほか. 肺癌の腹部臓器転移のCT診断—特に副腎転移について—. 肺癌 1984;24(3):229-237.

まとめ

超音波内視鏡の発達で、これまで困難であった胸腹腔内腫瘍のFNAが、安全に実施できるようになった。EUS-FNA(上・下部内視鏡, 気管支鏡)では、ターゲットとなる多岐に渡る部位に対して、正確な細胞採取が可能である。我々、病理の診断スキルアップやトレーニング, 標本作製法の改良が必要で、今後、更に発展する領域である。